

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	平成31年1月17日	評価結果市町村受理日	平成31年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail%022%kani%true&ij%gyosyoQ%2192500060-008&servi%ceQ%320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成31年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自宅が一番」「家族と一緒にくらしたい」は当たり前前の思いであり、その当たり前前を前提に「それでもここでくらしたい」と思っていただけの環境を24時間365日どのスタッフでも提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、介護相談や認知症の講演、認知症支援推進委員、介護予防教室など市から依頼されることは協力するように心掛けている。事業所で行う認知症カフェに参加している地域の方がボランティアとして事業所を手伝ってもらえるようになった。家の都合に合わせて勤務を調整したり、子供との同伴出勤を認めたり職員が働きやすい環境作りを心掛けている。利用者の思いを大切に喫茶店や美容室、菓子屋など利用者が行きたい場所に出掛けている。事業所の取り組みを地域に発信し、交流を大切にしながら利用者の笑顔を引き出すように取り組んでいる。事業所で行っているカフェや地域での講演などの活動が認められて、市の担当者より事業所前にコミュニティーバスのバス停を設置するなど地域と共生している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。	管理者は地域と交流しながら利用者の笑顔を引き出せるように取り組むことを職員に説明している。職員は業務を優先せずに利用者の思いに耳を傾け、利用者本位の生活を支援することを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、文化祭、三世代交流会などに参加させてもらっている。区長にお願いして企業としてではなく、1件の世帯として地域に入っている。	地域の行事に参加し交流することで利用者も顔馴染みとなっている。地域の方から土産や野菜をもらうこともある。事業所のカフェに参加していた地域の方がボランティアとして事業所を手伝ってもらえるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、介護相談会を安八温泉で行っている。施設内において第1、3土曜日に互近助カフェ(認知症カフェ)を行い地域の方にも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2カ月に1度の開催となっている。毎回、輪之内町福祉課、地域包括、社協、区長、民生委員と参加していただき、さまざまな意見を頂いています。	身体拘束や虐待など具体的な事例を紹介して、職員への声のかけ方や対応方法などアドバイスを受けている。防災士資格や災害時の対応など話し合っているが、家族の出席が得られていない。	会議の内容や開催方法、開催日時などを工夫して家族も参加できるように取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括、広域連合と関係を保ち、いつでも連絡がとれるようにしている。	市より認知症の講演会や認知症地域支援委員など依頼を受けて協力をしている。事故報告や書類提出時に情報を交換している。市の担当者が講演依頼や認定調査のために事業所を訪れ情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しているが早朝からは解除し日中施錠をすることはしない。身体面では身体拘束マニュアルを職員は理解し行っている。理解を深める為、年に1度研修会も実施。	会議において拘束や虐待の事例について職員間で話し合い、正しく理解できるように取り組んでいる。管理者は職員の気持ちに寄り添い、対話しながら気付きを促し拘束しない環境作りを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修、カンファレンス等で事例検討をした。管理者は権利擁護推進員の研修を修了済みである。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている人がいない為一部の職員は知識はあるが全職員に対して後見制度について学ぶ機会を持つことができていない。今後勉強会等行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明させていただいている。疑問や不安等があればその都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と本音で話ができる様な関係作りができています。	家族が来訪した時に利用者の状況や要望を伝え意見を聞いている。遠方の家族にはSNSで写真等を送信し意見を聞いている。利用者より昔馴染みの店に行きたいと要望があり職員と一緒に買い物に出掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、またはその都度、職員からの声に耳を傾けるよう努めている。	管理者は職員から出された意見やアイデアを拒まないように心掛けている。食事提供の方法や行事など職員間で話し合っ取り組んでいる。職員から要望があり乳幼児と同伴での出勤を認めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が、より働きやすい職場環境がつかれるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼。グループワークで事例検討する機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で他事業者の職員と交流を図ることが出来、刺激になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から利用者の声に耳を傾け、思っている事を聞くようにしている。家族さんや利用者の生活状況を見ながら、取り入れられそうなことはケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に見えた時に現状の問題点をお聞きして今後の対応を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と普段から話をするように心がけている。また、家族さんの面会時にも状況説明し何か要望があるかをお聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは家族だと思い日々接している。同じ目線に立って利用者の痛みが分かるよう心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には面会を増やして頂けるように話している。また、外出にもお連れしてもらるように声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別での外出機会を設け、馴染みのスーパーや喫茶店に行くように心掛けている。	利用者と一緒に昔馴染みの喫茶店に出掛けて知人と会話が弾んでいる。友人が来訪し、一緒に出掛けたいと言われ家族に了承を得て出掛けている。昔馴染みの菓子屋や美容室に職員と一緒に出掛ける方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係ができていますので、孤立しがちな方については職員が間に入りパイプ役になるよう努めている。利用者同士、お互いを気遣い合う関係を築いてみえる方々もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先には2週間に一度のペースでお見舞いに行っていた。亡くなった後もご家族から「本当に入所させて良かった。感謝しています。」と言ってもらえた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話をする時間を設けて、今思っている事、やりたいこと等を基に外出支援や散歩などを行っている。困難な方の場合はその方の表情や行動をみて、ご家族さんにもご自宅での様子をお聞きして対応している。	管理者は利用者の思いを叶えることによりやすい関係となることを説明している。職員は行きたい場所や食べたい物を問い掛けて要望を聞いている。困難な方には一対一で関わり表情やしぐさから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後の家族来所時に聞き取りを行い把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録を取り、一日の過ごし方を把握している。朝夕の申し送りでも心身状況の変化について情報共有している。いつもと違った様子がみられた時は記録に残すようにしている。また、連絡ノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話でご本人の現状を伝えご家族の意向や本人の意向を聞いている。関係者間で話し合いをし、介護計画を作成している。	モニタリングは職員間で話し合いながら行い、家族や医師の意見を取り入れて計画を作成している。状態の変化に合わせて随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、それを踏まえてカンファレンスやミーティングで話し合いをしている。状態によって対応の変更がある場合は連絡ノートを使い情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての機能を最大限引き出した支援として取り組んでいる。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホットステーションや利用者の馴染みの方々が集まる喫茶店にでかけている。また、場所提供をして、絵手紙教室等を開いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に往診を受けている。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族に利用者の状態を口頭や書面で伝え結果を確認している。家族が行けない時は職員が同行している。状態が変化した時は家族の希望で協力医に変更する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤2名の看護師に、その都度相談し対応している。また、週に1回、訪問看護師に来ていただき、相談にのっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明させていただいている。主治医の診断によりターミナル期に入った時は、主治医、ご家族、職員で話し合い家族の意向に沿えるようにしている。また、定期的にご家族に状況説明させていただいている。今年度は1名看取りをしました。	契約時に事業所の方針を説明している。状態が変化したときは家族の意向を確認している。家族と医師、職員で話し合い意向に沿えるように取り組んでいる。訪問看護ステーションの職員が利用者のケアについて詳細を職員に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度外部に委託し研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に夜間想定での避難訓練を行った。2月に日中想定での避難訓練を実施予定。	夜間想定を含めて年2回避難訓練を行っている。米やレトルト食品、水、ガスコンロ等備蓄している。運営推進会議において水害時の避難について話し合っているが訓練について地域の方の協力が得られていない。	運営推進会議で話し合い、助言やアドバイスを受けながら地域の協力が得られえるように継続的な取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊敬の気持ちを忘れず、言葉かけ等には十分注意をするよう日々のケアを通して職員に促している。排泄時、入浴時等のプライバシーの尊重も図っている。	管理者は、利用者の性格を把握して安心できるような声掛けとなるように説明している。家族の助言から本人が分かりやすいような呼び方としている。職員は入浴時や排泄時に羞恥心を損ねないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者との関わりを持ち、会話の中からニーズを組み取っている。いくつかの選択肢の中から選んでもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操とおやつ前の体操は利用者全員で行っているが、それ以外利用者のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡を見て頂くようにしている。くしで髪の毛をといたり、利用者によってはお化粧をしてみえる方もみえる。毎日、同じ服を選びがちな方には服選びに立ち会うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力を活かした、食事の準備、後片付けを職員と一緒にしている。また、行事の時は利用者のリクエストに答えたメニューにするなど楽しみの時間になるよう努めている。	利用者と買い物に行った時に、食べたい物を聞き献立を変更することもある。もらった野菜で利用者に調理方法を聞いて提供している。外食する時は一緒に家族も参加できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量(必要な方のみ)をチェックしている。本人の要望を聞きながらごはんの量を決めている。またご家族にもどれだけ食べていたか伺う事もする。体調やADLに合わせて食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っています。ご自分で上手くできない方に対しては、スタッフにて介助や確認をしています。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、パターンの把握に努めている。毎日のチェックから、誘導のタイミングを見計っている。その方の希望や尿量等から使用物品を決めて使っている。	排泄チェック表からパターンを把握し、日中はトイレに誘導している。立位の困難な方には2人で介助している。職員は排泄の自立の大切さを意識して、トイレの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり食事でも食物繊維の多めのものを取って頂いたり工夫をしている。状況に応じて主治医に相談して薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて対応している。ゆっくり入浴していただけるよう1対1で対応し、会話するように心がけている。季節に応じて、ゆづ湯を楽しんで頂いたり、機械浴と個浴の好きな方で入っていただいている。	毎日や夕方入浴など利用者の意向に合わせている。嫌がられる方には気の合う利用者同士で入浴するなど工夫している。職員は歌ったり、会話したりしながら気持ち良く入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活ができるよう支援しているが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも見る事ができるよう個人ファイルにとじている。追加、中止のある時は連絡ノートや申し送り時に伝える。服薬時には本人と名前、朝、昼、夕、日付けの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・楽しみ・張り合い等を考慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は散歩や喫茶店外出をしている。また、その日のおやつを買いに外出する事もある。誕生日の時は仲良しの方と外食する事もある。家族が遠方にみえるため、昔からの知り合いの方が墓参りにつれていくくださる事もあった。(家族の同意あり)	菓子屋や美容室、喫茶店など利用者の行きたい所に出掛けている。梅や桜、藤など季節の花見に出掛けることもある。家族にお願いをして正月を自宅で過ごす方もいる。家族と一緒に一泊で琵琶湖に旅行に出掛けている方もいる。	

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重して、財布を所持したり外出時に使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時はいつでも外部にやりとりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑すぎず、寒すぎないように心がけている。季節感のある掲示物を掲示している。	玄関前のプランターに季節の花を植えている。玄関先やリビングに季節の花やひな人形が飾られて季節を感じることができる。職員は温湿度に気を付けて快適に過ごせるように取り組んでいる。家族が飾って欲しいと持ってきた吊るし雛を廊下やリビングに飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、お部屋で話ができるよう、飲み物をお持ちし気のすむまで話していただいている。ソファで会話を楽しんだり、好きな番組を見て頂いている。東館、西館を自由に行き来していただき、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして御家族様の写真などを持ってきていただき飾っている。できるだけ、自宅での生活感を継続していただけるよう支援している。	テレビや化粧箱など使い慣れた物を持ち込んでいる。遺影や家族との写真など飾っている方もいる。人の役に立ちたいという利用者の思いから、出来ることを検討して居室内やリビングをモップかけしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割分担を持って過ごしていただいている。買い物にも付き合っている。枯葉はきや草むしりがお好きな方には時間のある時に見守りをしながら行って頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	平成31年1月17日	評価結果市町村受理日	平成31年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail_022_kani=true&i_gyosyoQ=2192500060-008&servi%ceQ=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成31年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、文化祭、三世代交流会などに参加させてもらっている。区長にお願いして企業としてではなく、1件の世帯として地域に入っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、介護相談会を安八温泉で行っている。施設内において第1、3土曜日に互近助カフェ(認知症カフェ)を行い地域の方にも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2カ月に1度の開催となっている。毎回、輪之内町福祉課、地域包括、社協、区長、民生委員と参加していただき、さまざまな意見を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課、地域包括、広域連合と関係を保ち、いつでも連絡がとれるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しているが早朝からは解除し日中施錠をすることはない。身体面では身体拘束マニュアルを職員は理解し行えている。理解を深める為、年に1度研修会も実施。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修、カンファレンス等で事例検討をした。管理者は権利擁護推進員の研修を修了済みである。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている人がいない為一部の職員は知識はあるが全職員に対して後見制度について学ぶ機会を持つことができていない。今後勉強会等行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明させていただいている。疑問や不安等があればその都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と本音で話ができる様な関係作りができています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、またはその都度、職員からの声に耳を傾けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が、より働きやすい職場環境がつかれるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼。グループワークで事例検討する機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で他事業者の職員と交流を図ることが出来、刺激になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から利用者の声に耳を傾け、思っている事を聞くようにしている。家族さんや利用者の生活状況を見ながら、取り入れられそうなことはケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に見えた時に現状の問題点をお聞きして今後の対応を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と普段から話をするように心がけている。また、家族さんの面会時にも状況説明し何か要望があるかをお聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは家族だと思い日々接している。同じ目線に立って利用者の痛みが分かるよう心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には面会を増やして頂けるように話している。また、外出にもお連れしてもらえるように声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別での外出機会を設け、馴染みのスーパーや喫茶店に行くように心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係ができていますので、孤立しがちな方については職員が間に入りパイプ役になるよう努めています。利用者同士、お互いを気遣い合う関係を築いてみえる方々もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先には2週間に一度のペースでお見舞いに行っていた。亡くなった後もご家族から「本当に入所させて良かった。感謝しています。」と言ってもらえた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話をする時間を設けて、今思っている事、やりたいこと等を基に外出支援や散歩などを行っている。困難な方の場合はその方の表情や行動をみて、ご家族さんにもご自宅での様子をお聞きして対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後の家族来所時に聞き取りを行い把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録を取り、一日の過ごし方を把握している。朝夕の申し送りでご心身状況の変化について情報共有している。いつもと違った様子がみられた時は記録に残すようにしている。また、連絡ノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話でご本人の現状を伝えご家族の意向や本人の意向を聞いている。関係者間で話し合いをし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、それを踏まえてカンファレンスやミーティングで話し合いをしている。状態によって対応の変更がある場合は連絡ノートを使い情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての機能を最大限引き出した支援として取り組んでいる。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホットステーションや利用者の馴染みの方々が集まる喫茶店にでかけている。また、場所提供をして、絵手紙教室等を開いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に往診を受けている。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤2名の看護師に、その都度相談し対応している。また、週に1回、訪問看護師に来ていただき、相談にのっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明させていただいている。主治医の診断によりターミナル期に入った時は、主治医、ご家族、職員で話し合い家族の意向に沿えるようにしている。また、定期的にご家族に状況説明させていただいている。今年度は1名看取りをしました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度外部に委託し研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に夜間想定避難訓練を行った。2月に日中想定避難訓練を実施予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての尊敬の気持ちを忘れず、言葉かけ等には十分注意をするよう日々のケアを通して職員に促している。排泄時、入浴時等のプライバシーの尊重も図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者との関わりを持ち、会話の中からニーズを組み取っている。いくつかの選択肢の中から選んでもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操とおやつ前の体操は利用者全員で行っているが、それ以外利用者のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡を見て頂くようにしている。くしで髪の毛をといたり、利用者によってはお化粧をしてみえる方もみえる。毎日、同じ服を選びがちな方には服選びに立ち会うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力を活かした、食事の準備、後片付けを職員と一緒にしている。また、行事の時は利用者のリクエストに答えたメニューにするなど楽しみの時間になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量(必要な方のみ)をチェックしている。本人の要望を聞きながらごはんの量を決めている。またご家族にもどれだけ食べていたか伺う事もする。体調やADLに合わせて食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っています。ご自分で上手くできない方に対しては、スタッフにて介助や確認をしています。		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、パターンの把握に努めている。毎日のチェックから、誘導のタイミングを見計っている。その方の希望や尿量等から使用物品を決めて使っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり食事でも食物繊維の多めのものを取って頂いたり工夫をしている。状況に応じて主治医に相談して薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて対応している。ゆっくり入浴していただけるよう1対1で対応し、会話するように心がけている。季節に応じて、ゆづ湯を楽しんで頂いたり、機械浴と個浴の好きな方で入っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活ができるよう支援しているが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも見る事ができるよう個人ファイルにとじている。追加、中止のある時は連絡ノートや申し送り時に伝える。服薬時には本人と名前、朝、昼、夕、日付けの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や暮らし方・楽しみ・張り合い等を考慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は散歩や喫茶店外出をしている。また、その日のおやつを買いに外出する事もある。誕生日の時は仲良しの方と外食する事もある。家族が遠方にみえるため、昔からの知り合いの方が墓参りにつれていってくださる事もあった。(家族の同意あり)		

さくら悠輪苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重して、財布を所持したり外出時に使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時はいつでも外部にやりとりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑すぎず、寒すぎないように心がけている。季節感のある掲示物を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、お部屋で話ができるよう、飲み物をお持ちし気のすむまで話していただいている。ソファで会話を楽しんだり、好きな番組を見て頂いている。東館、西館を自由に行き来していただき、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして御家族様の写真などを持ってきていただき飾っている。できるだけ、自宅での生活感を継続していただけるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割分担を持って過ごしていただいている。買い物にも付き合っている。枯葉はきや草むしりがお好きな方には時間のある時に見守りをしながら行って頂いている。		